

『Saruk stage (Story Along the River of Urban Key)』

～人が思いのままに“さるく”（歩き回る）ことができ、自由に自己表現を行える舞台～

私達が街づくりの提言をすることになったのは、「水辺空間研究会」という団体の勉強会に参加したことがきっかけです。

この研究会では、福岡市都心部にある水辺空間に着目し、福岡市をより良い街に変えていこうという主旨がありました。

そこで、私達は、学生という立場から、水辺空間の活性化を考え、福岡市都心部の将来像を提案します。

まず、魅力的な水辺空間づくりを考える上で、世界有数の水辺都市であるパリ、ロンドン、アムステルダム、ヴェネチアの

地理的条件を調べ、福岡と同スケールで比較しました。すると、福岡市都心部には、他の水辺都市とほぼ同面積の川が

流れていることが分かりました。福岡には、魅力的な水辺空間を創出するための資質が、十分に備わっています。

これらの水辺都市を参考にして、福岡が魅力的な都市となるためには、誰でも日常生活レベルで自由に利用でき、

福岡の個性を育んでいける環境づくりを行っていく必要があります。こうした都心部づくりの拠点として、

那珂川・博多川河口付近に着目しました。現状を見ていくと、川沿いには、人が集まる場所である商業施設や公園などが

たくさんあるものの、場所によって賑わいの有無が明確であり、それぞれが点在化しています。また、水際空間については、

川沿いに連続性がなく、ゆっくりとたたずめる開放的な空間とは言えません。

そのため、日常的行動を通して親水性を感じることができず、人々が活用している姿はほとんどありません。

しかし、これらの都市空間と河川を都心部のオープンスペースとして位置づけると、福岡には、

人々が活動できる場所が多く潜在していることが分かりました。私達は、これらのオープンスペースを一体化した空間にして、

誰もが主役になれる活動の場を提供します。それが、**saruk stage** です。

Saruk stage とは、**Story Along the River of Urban Key** の頭文字をとったもので、福岡市都心部の鍵となる川沿いで、

人々が思い思いのままに自己表現を行い、それぞれの物語が広がっていくという思いを込

めています。

また、さるくとは博多弁で歩き回ることを意味しています。さるくステージでは、水辺空間のどこにでも、

ストリートライブや山笠祭りなどのイベント、屋台やオープンカフェなどの商売を出すことができる、

人々の活動で溢れた活気ある空間を提供します。つまり、人と人々が気軽に触れ合える環境を多くの場所で実現し、

日常生活レベルでどこにでも歩き回れ、様々な活動のステージに巡り合えるような、人情ある空間を実現します。

このさるくステージを提案する中で、私達は以下の4つを考えました。

1. 水辺の遊歩道の設置

那珂川には、開放感のあるボードウォーク、博多川には、水辺にアプローチしやすい階段護岸を連続させます。

この連続した水辺の遊歩道を設置することで、人々は水辺に沿って歩き楽しむことができ、博多港から天神・中洲地区へと歩行者ネットワークを結ぶことができます。また、オープンスペースとして活用できるので、

多くの人々の活動が川沿いに広がっていき、水辺空間がストーリー性のある魅力的な空間として生まれ変わります。

2. 水上ネットワークの確立

通勤や買い物、散策といった日常的活動を水上空間で行えるように、博多港～都心部、そして都心部内に船で回遊できるようにします。

船着き場の位置については、地上交通とのアクセスが近いこと、人が集まるランドマークが近いことなどを考慮しました。

このように、都心部に船が行き交うようになれば、人々は普段味わうことのできなかった、優雅な水上生活を日常的に堪能することができます。

3. 都心部北地区の整備

都心部北地区は、多くの文化施設があるものの、人々の流れが少なく、都市の活気を失った寂しい雰囲気が漂っています。

そこで、この地区全体を誰でも利用できる教育・文化をテーマとしたまとまりのある空間にし、一体的に整備します。

競艇場付近は、須崎公園との一体化を考え、映画や芸術、音楽など福岡に住む様々なアーティスト達が自分の才能を発揮し、

優秀な人材を世に送り出す文化・教育発表の場とします。ベイサイドプレイスについては、

福岡の文化を外に発信し、九州・アジアの文化を受信していく交流の拠点として、アジア文化市場を提案します。このように、一体的整備を行うことで、回遊性を持った魅力ある空間を演出し、多くの年代層の人々で賑わう場所にできると考えました。

4. 川端商店街の活性化

川端商店街と博多川という並行する 2 つの空間を、1 つの軸として、一体化した空間にすることを考えました。

新川端商店街では、博多川の両側に博多特有の店を建ち並べ、店舗の入り口を川沿いに設けることにより、

人々が川沿いを散策しながら商店街の雰囲気を楽しむことができます。また、アーケードの中に数箇所橋を渡したり、

商売船を行き交わせることで、地元の人々や多くの観光客で賑わう人情味溢れる博多の象徴として、魅力ある水辺空間になると考えました。

このように、さるくステージでは、福岡に住むみんなが、自由に商売や都市活動を行うことができるようになり、

今まで見失われていた河川が都心部の表となります。また、このさるくステージは、福岡部と博多部という 2 つの文化空間を盛り上げ、都心部全体に福岡の個性が広がっていき、他都市では味わえない日常生活が楽しめる都心になり得ると考えました。

このように、福岡は、社会の枠に捕われず、みんなが活動の主役として自由に競争できる環境を生み出し、

人を育てる九州・アジアの **mother town** として、世界でただ 1 つの魅力的な水上都市として、生まれ変わるのです。